

支援ご協力を受けたにしろ、随分と苦労したと思われしました。

復員後の十月末兄二人が復員して四大家族となり、私は十二月二十日縁があつて山内家に婿養子に入りました。山内家は中程度の農家で、酒類、鮮魚、雑貨店も兼業でしていましたので、しばらく手伝いして、昭和二十五年四月から四十一年三月末まで公立総合大館病院に勤務し庶務課長で定年退職しました。

現在、長男死亡後、商店は閉鎖、田地も他人に耕作を依頼して、趣味で始めた五十年來の川柳の作句をして地方新聞への投稿を楽しんでいます。

最後にいつまでも平和で美しい国であること願う者です。

## 私の軍隊生活

茨城県 房前 雄三郎

水戸黄門で名高い水戸市南町の房前家に六人兄弟の三男として生れた私は、両親が理髪店を営んでいたので、水戸市の三の丸尋常高等小学校を卒業すると、両親に教えられて理髪業を手伝っていました。

昭和十三（一九三八）年五月、徴兵検査が実施され、結果は第二乙種合格でした。支那事変以後戦局は拡大し、同年輩の人々は召集令状が来て支那大陸等に出征するようになりました。私は第二乙種だからまだ召集はないだろうと思っていました。第一補充兵に繰り上げされ、昭和十四年五月に召集令状が来て、水戸歩兵第三十七連隊に入隊せよとのことでした。当時は「祝出征」と大きな幟を家の前に何本も立てて、町内の大勢の方の見送りにて感きわまつたものでした。

そして水戸歩兵第三十七部隊に入隊、三カ月の初年兵教育では厳しい軍隊教育の訓練を受けました。昭和十四年も十二月を迎えた時、歩兵第二連隊が中国から帰還して来ましたので、兵舎が満杯となり、召集兵のほとんどが召集解除となったのです。

八カ月間の短い軍隊生活でしたが、いつまた召集されるか分からないほど戦局は拡大していました。帰宅後も元の理髪業をしておりましたが、昭和十六年七月、第二回目の召集令状が来ましたが、この時は関東軍特別大演習と言うことでした。水戸歩兵第二連隊に入隊、今度は外地出兵となりました。

七月二十日早朝、連隊営門を隠密裏に出発、水戸駅より乗車、下関に向い、ここで乗船して大連に上陸し、直ちに貨車に乗せられて一路北上しました。当時北安省嫩江の街に駐留していた歩兵第一四三部隊に到着、旧歩兵第二連隊に入隊することになりました。

ここは北満の地で、見渡す限りの広漠たる原野ですが、近くには日本人が経営する農場があり、麦畑や高粱畑が見えます。日本人がチチハルに住んでいて、春になると農場を経営しています。そして、ここでは九月中旬となると雪が降って来るので、それまでに収穫を終わらせて、またチチハルの住宅へ戻ると言う。

ここ嫩江の部隊は、毎日、対ソ戦に備えての警備が任務でした。まだ八月でも北満の夜は冷えて、立哨していても寒くなります。毎夜のように狼の遠吠えが聞こえ、気味悪いものでした。私達が到着すると間もなく、本隊の第二連隊は南方のペリリエー島に転属することになりました。

チチハルには駅前には大理石の高さ三十メートルもある大きな忠霊塔がありました。また宝石「瑪瑙<sup>めのう</sup>」の産地で、駅の敷石は全部瑪瑙で太陽の光でキラ輝いていました。そして工場がありブローチとかパイプなどいろいろな工芸品が作られています。

チチハルの警備に着いていました昭和十九年七月に、今度は部隊は沖繩に出陣することになりました。南方戦線では玉砕した悲運な部隊も出て来ており、米軍は本土上陸を敢行すべく作戦中でしたので、米軍上陸に対処すべく私達は南大東島に派遣されたのでした。

昭和十九年七月、チチハルを出発して南大東島の南部海岸沿いの警備に就いたので。部隊は南と北に一個大隊を布陣して、米軍上陸に対しての防備をすることになりました。

この大東島は耕地とて少ないのですが、ほとんどが砂糖キビ畑でした。そして我々のここでの訓練は、自分の腹に爆薬と手榴弾を抱えて、上陸して来た敵の真つただ中で爆死すると言う訓練を続けていました。まさに日露戦争当時の爆弾三勇士そのものの猛訓練でした。敵は艦砲射撃によって猛攻撃を行い、海岸線の陣地は多大の被害と犠牲者を出し大損害を被つたのです。

かくして沖繩本島には米軍が上陸し、ついに昭

和二十年八月十五日の終戦を迎えたのです。そして我々が毎日訓練をしていた爆薬と手榴弾による爆死の実技はなされないまま終戦を迎え、生きのびることが出来たのでした。

そして米軍による武装解除が行われ、ここで四月月間の捕虜生活をしました。十二月に航空母艦が迎えに来て、広島県井之島に上陸、ここで復員作業を終え、各自それぞれの故郷に向って帰って行きました。

かくして、昭和二十年十二月三十一日、郷里の水戸に着いたのですが、街のほとんどは空襲にて廃虚と化し、見る影も無い姿でした。

幸い実家は運よく無事でしたのでほっとしました。それでも知人友人の何人かは空襲で亡くなられていました。水戸の街には現在でも小高い丘には防空壕の穴が残っています。

復員後両親はまだ理髪店を営んでおりましたが、私は理髪店を止めてカメラ店を経営することとなり今日に至っております。

あの大战後六十一年、我が国は平和を保つて来ましたが、地球上においては戦争が絶え間なく起っております。

安心、安全、信頼の世界をと念ずるものであり、平和を念ずるものです。

## 私の戦記

新潟県 会 田 政 司

私は大正六（一九一七）年十二月六日、男三人妹二人の五人兄弟の長男として生れました。生家は両親が理髪業を営んでおりましたので、学校を卒業すると父に教わりながら理髪業に従事しておりました。

昭和十四（一九三九）年五月ころ、徴兵検査が実施され、私は第二乙種合格となり、当分入隊はないだろうと思っておりましたところ、翌年の十二月一日、第一乙種に編入となり、第一補充兵として召集令状が来たのでした。

当時は中国大陸での戦線が拡大しつつあって街のあちらこちらの地域からも出征兵士の姿が見られるようになりました。私の街からも三人ほど召集令状が来て、門口には「祝出征」と書かれた旗が立ち、町内は大賑わいの激励の見送りでした。